

Ⅱ 結果の内容

《県民の移動の実態及び公共交通に対する意識について》

＜通院や買い物等の目的で最も長い時間利用する交通手段＞
 全ての目的で「自家用車・バイク（自分で運転）」が最多

問1 通院や買い物等の目的で最も長い時間利用する交通手段を教えてください。

1.通勤	n= 1,000	回答数 (人)	割合 (%)
自家用車・バイク(自分で運転)		650	65.0
自家用車・バイク(家族の送迎)		18	1.8
鉄道		22	2.2
バス		10	1.0
タクシー		1	0.1
その他の交通手段		64	6.4
該当する目的での移動なし		235	23.5

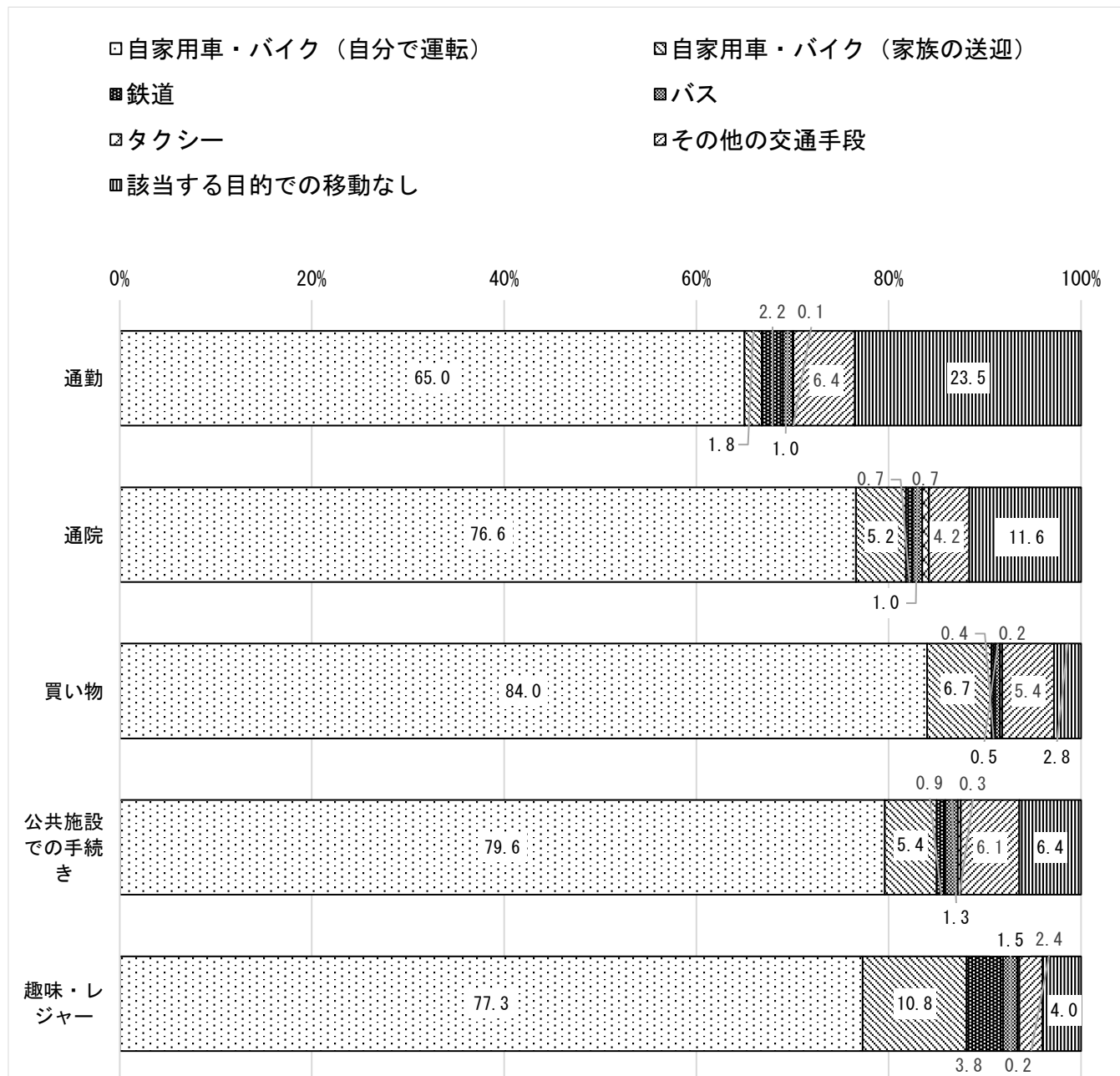
2.通院	n= 1,000	回答数 (人)	割合 (%)
自家用車・バイク(自分で運転)		766	76.6
自家用車・バイク(家族の送迎)		52	5.2
鉄道		7	0.7
バス		10	1.0
タクシー		7	0.7
その他の交通手段		42	4.2
該当する目的での移動なし		116	11.6

3.買い物	n= 1,000	回答数 (人)	割合 (%)
自家用車・バイク(自分で運転)		840	84.0
自家用車・バイク(家族の送迎)		67	6.7
鉄道		4	0.4
バス		5	0.5
タクシー		2	0.2
その他の交通手段		54	5.4
該当する目的での移動なし		28	2.8

4.公共施設での手続き	n= 1,000	回答数 (人)	割合 (%)
自家用車・バイク(自分で運転)		796	79.6
自家用車・バイク(家族の送迎)		54	5.4
鉄道		9	0.9
バス		13	1.3
タクシー		3	0.3
その他の交通手段		61	6.1
該当する目的での移動なし		64	6.4

5.趣味・レジャー	n= 1,000	回答数 (人)	割合 (%)
自家用車・バイク(自分で運転)		773	77.3
自家用車・バイク(家族の送迎)		108	10.8
鉄道		38	3.8
バス		15	1.5
タクシー		2	0.2
その他の交通手段		24	2.4
該当する目的での移動なし		40	4.0

●すべての目的で「自家用車・バイク（自分で運転）」が最多となり、該当する目的での移動が無い方を除くと、「自家用車・バイク（自分で運転）」が8割を超えている。



＜目的地の所在地＞

趣味・レジャー以外は「お住いの市町村」と答えた方が多い

問2 それぞれの目的について、最もよく行く目的地はお住いの市町村か、市町村外か教えてください。

1.通勤	n= 765	回答数 (人)	割合 (%)
お住いの市町村		517	67.6
市町村外		248	32.4

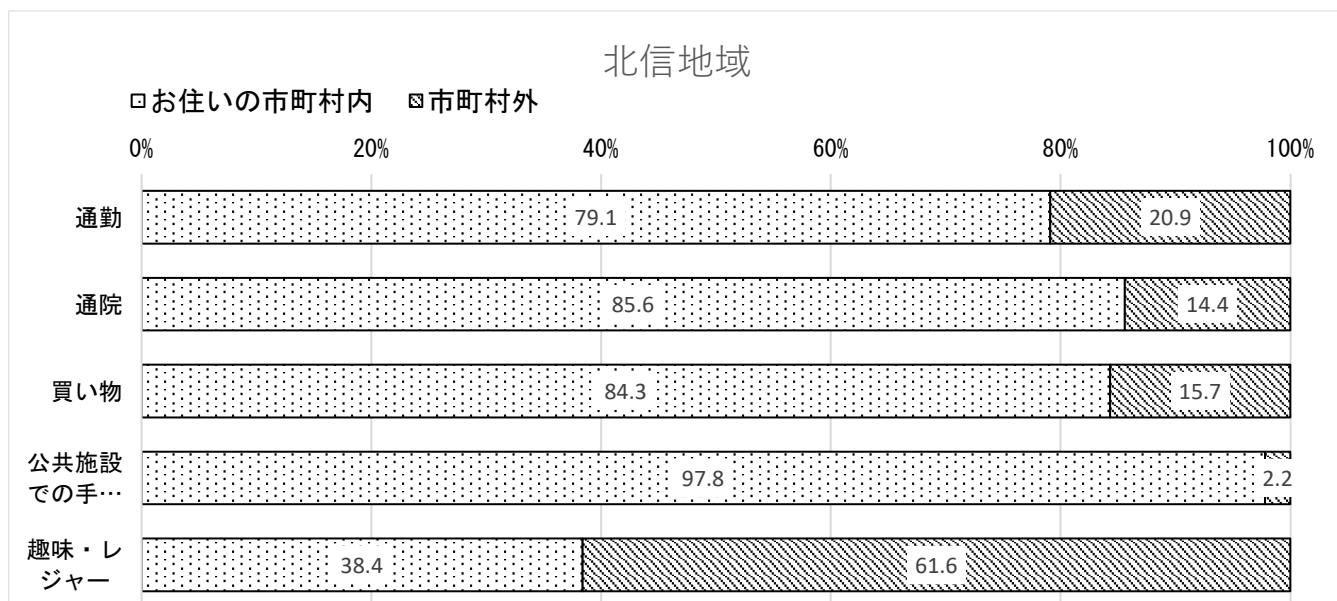
2.通院	n= 884	回答数 (人)	割合 (%)
お住いの市町村		687	77.7
市町村外		197	22.3

3.買い物	n= 972	回答数 (人)	割合 (%)
お住いの市町村		776	79.8
市町村外		196	20.2

4.公共施設での手続き	n= 936	回答数 (人)	割合 (%)
お住いの市町村		905	96.7
市町村外		31	3.3

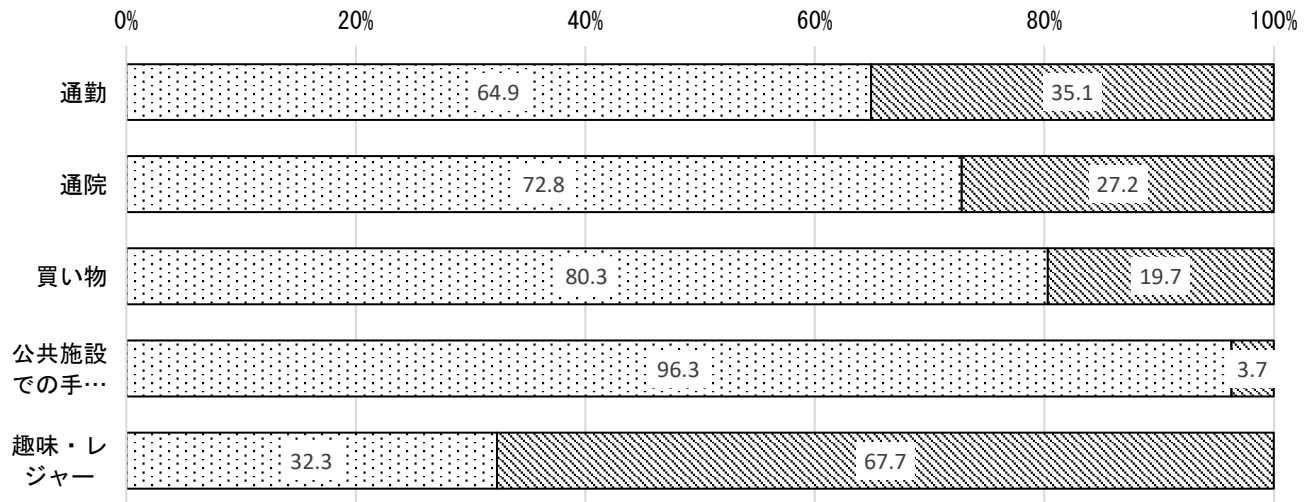
5.趣味・レジャー	n= 960	回答数 (人)	割合 (%)
お住いの市町村		324	33.8
市町村外		636	66.3

●趣味・レジャー以外はすべての地域で「①お住いの市町村」が多く、南信地域ではほかの地域に比べ、市町村外に行く人が多い傾向がある。



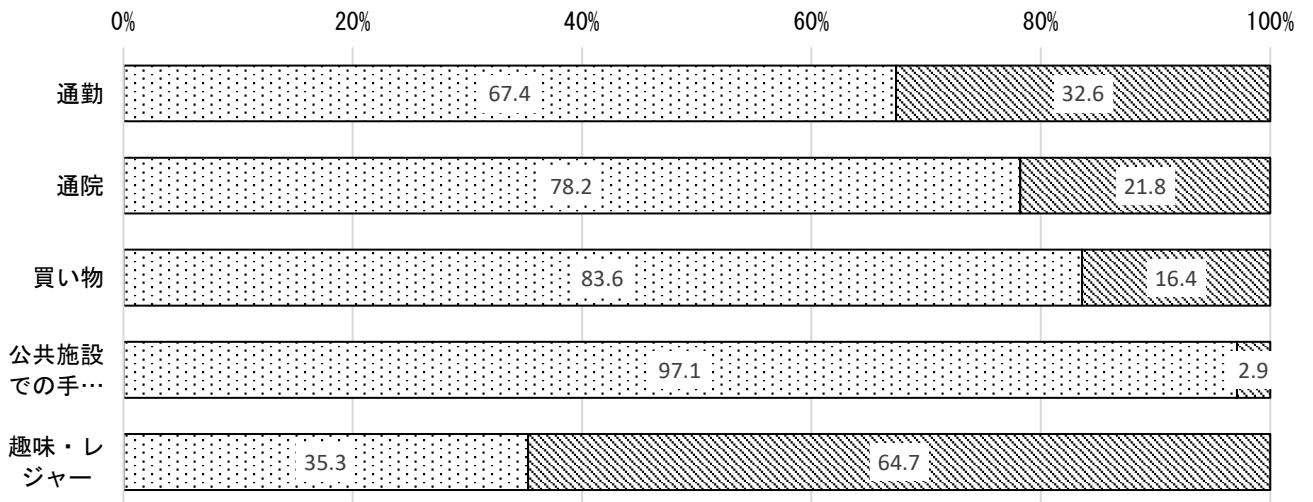
東信地域

□お住いの市町村内 ▣市町村外



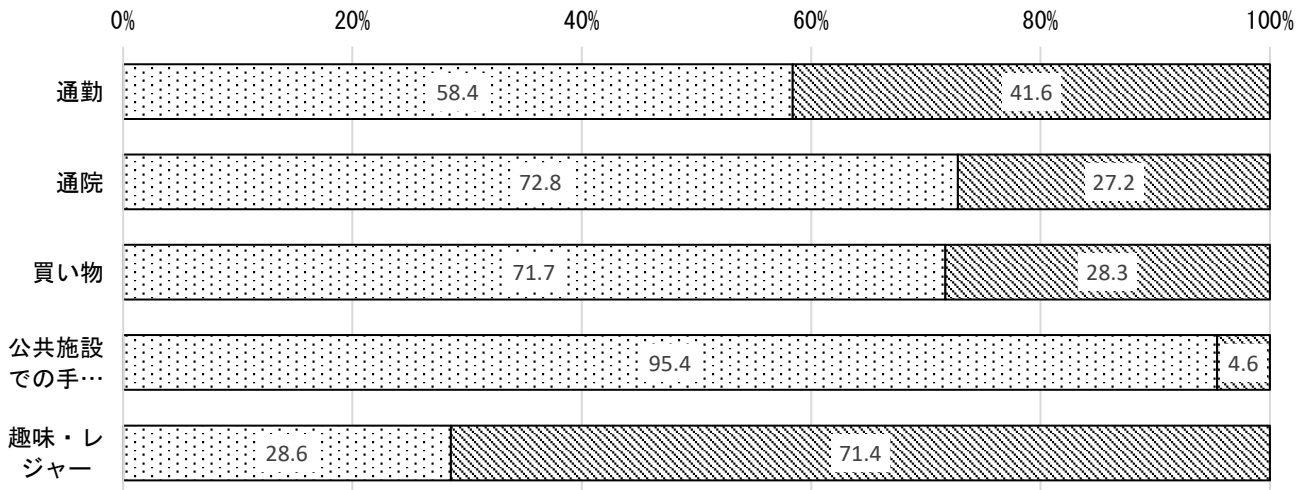
中信地域

□お住いの市町村内 ▣市町村外



南信地域

□お住いの市町村内 ▣市町村外

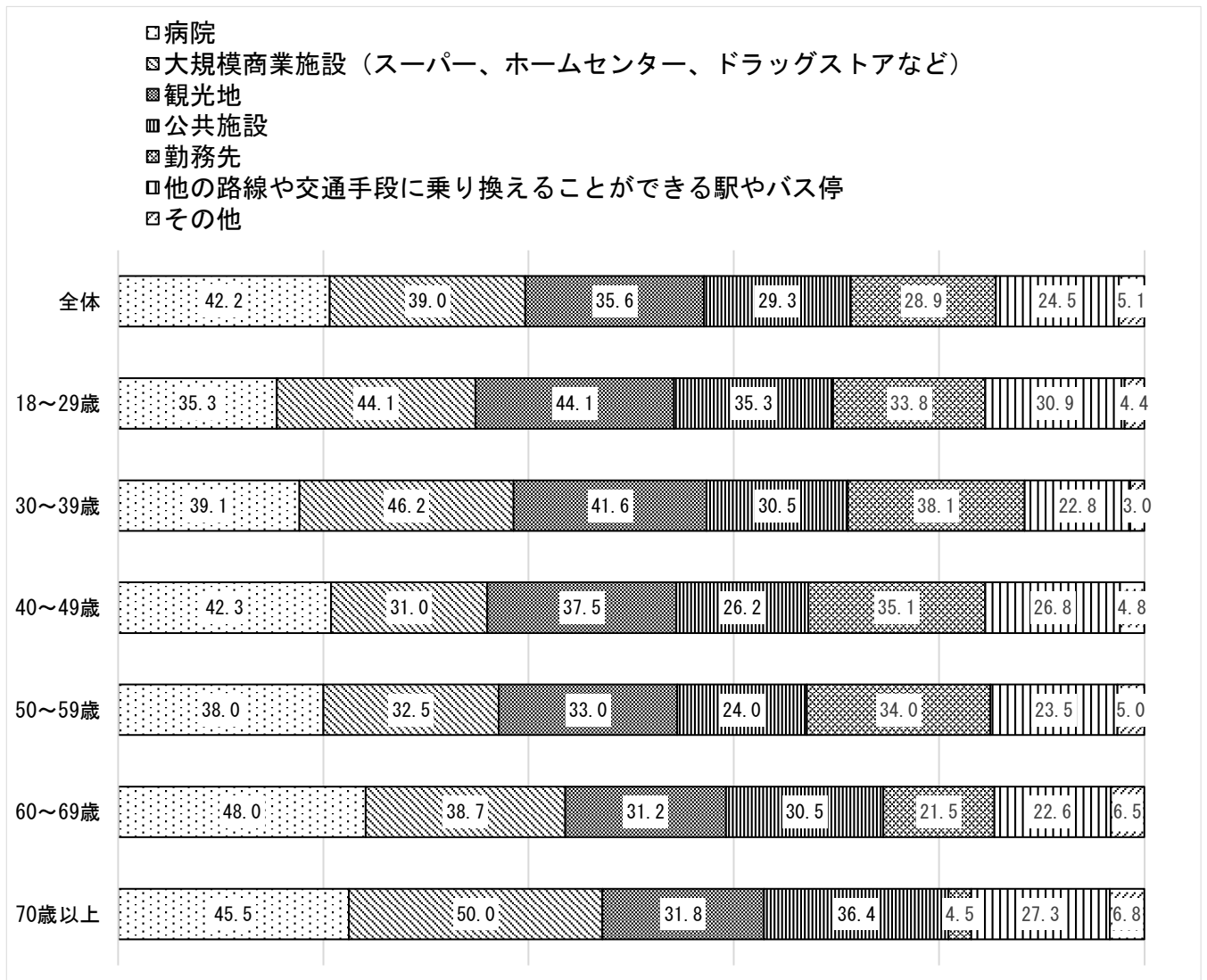


＜公共交通を利用して移動できると便利だと思う目的地＞
「病院」及び「大規模商業施設」が約4割

問3 あなたにとって公共交通を利用して移動できると便利だと思う目的地を教えてください。(3つまで)

	n= 1000	回答数 (人)	割合 (%)
病院		422	42.2
大規模商業施設(スーパー、ホームセンター、ドラッグストアなど)		390	39.0
観光地		356	35.6
公共施設		293	29.3
勤務先		289	28.9
他の路線や交通手段に乗り換えることができる駅やバス停		245	24.5
その他		51	5.1

●「病院」が42.2%と最も高く、次に「大規模商業施設」(39.0%)、「観光地」(35.6%)と続いている。



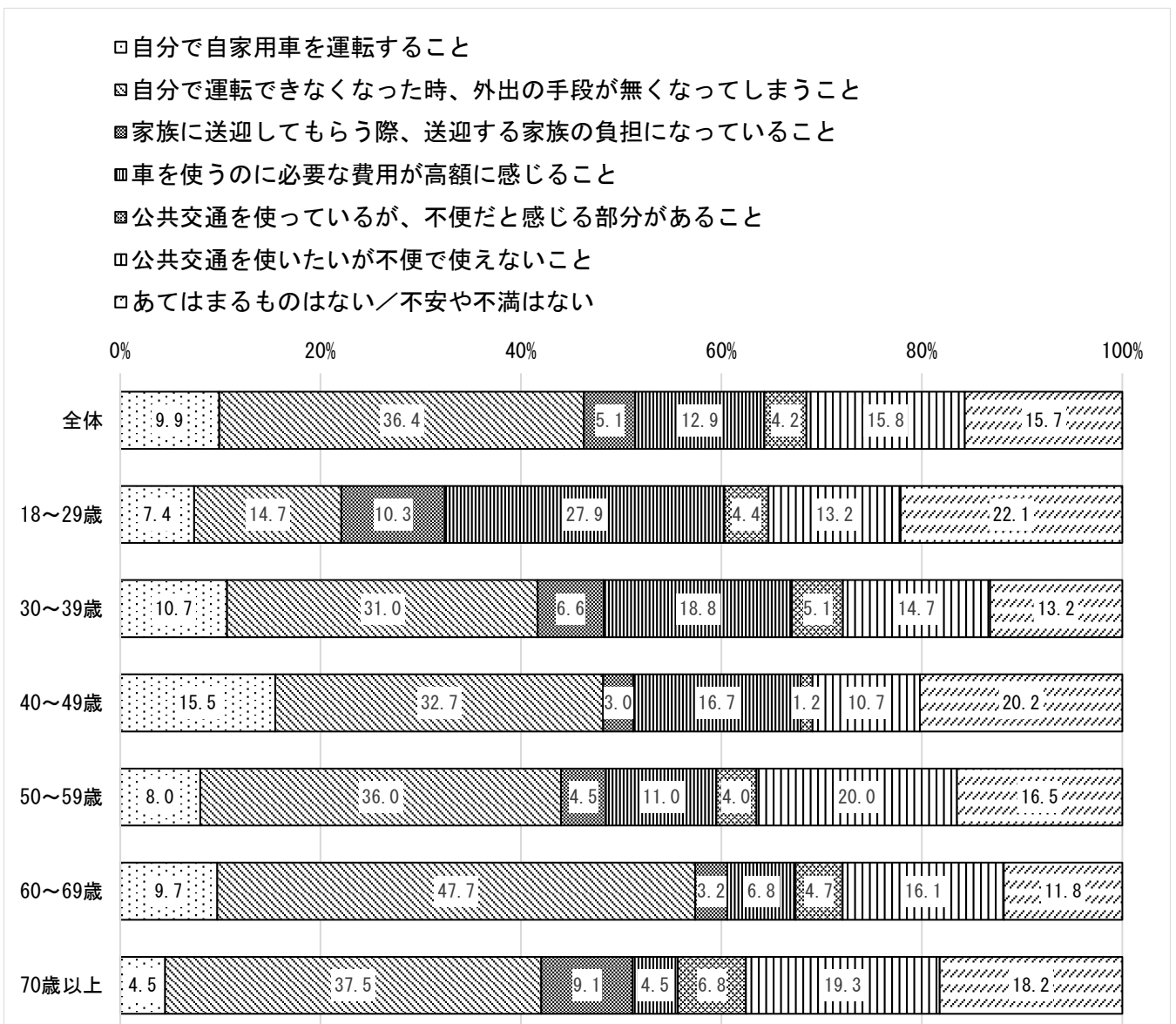
その他としては、「酒類を提供する飲食店」、「子供が通学する高校」等の回答が見られた。

＜外出の際の交通手段について、最も不安や不満に感じていること＞
 「自分で運転できなくなった時、外出の手段が無くなってしまうこと」が4割弱で最多

問4 外出の際の交通手段について、最も不安や不満に感じていることを教えてください。

	n= 1000	回答数 (人)	割合 (%)
自分で自家用車を運転すること		99	9.9
自分で運転できなくなった時、外出の手段が無くなってしまうこと		364	36.4
家族に送迎してもらおう際、送迎する家族の負担になっていること		51	5.1
車を使うのに必要な費用が高額に感じる		129	12.9
公共交通を使っているが、不便だと感じる部分があること		42	4.2
公共交通を使いたいが不便で使えないこと		158	15.8
あてはまるものはない／不安や不満はない		157	15.7

●若い世代では「車を使うのに必要な費用が高額に感じる」が多く、年代が上がると「自分で運転できなくなった時、外出の手段が無くなってしまうこと」が増えていく。

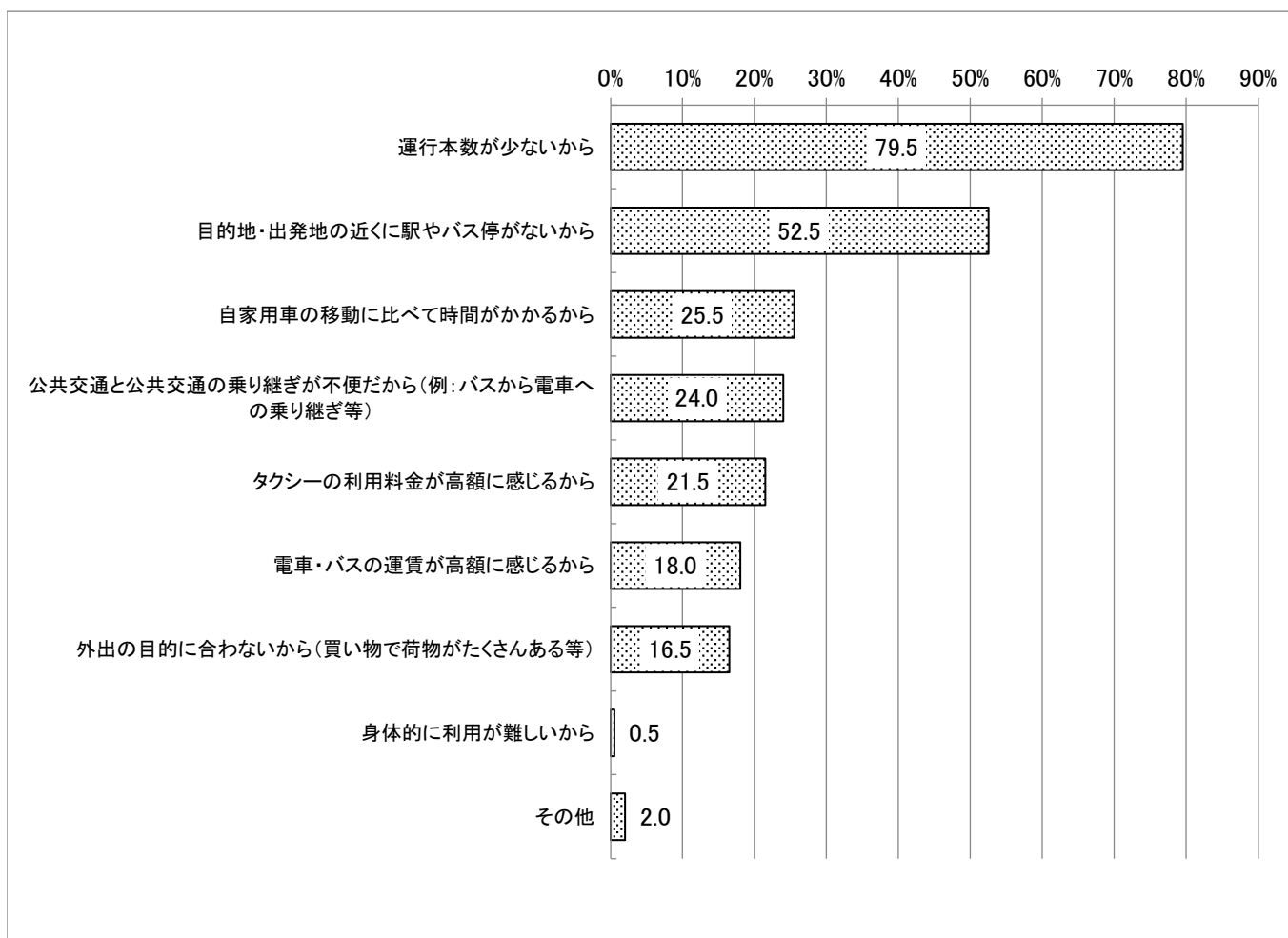


＜公共交通が不便だと感じる理由＞
 「運行本数が少ないから」が約8割、「目的地・出発地の近くに駅やバス停がないから」が約5割と多い

問5 問4で「5.公共交通を使っているが、不便だと感じる部分があること、6.公共交通を使いたいけど不便で使えないこと」を選んだ方にお聞きします。公共交通が不便だと感じる理由を教えてください。(3つまで)

	回答数 (人)	割合 (%)
n= 200		
運行本数が少ないから	159	79.5
目的地・出発地の近くに駅やバス停がないから	105	52.5
自家用車の移動に比べて時間がかかるから	51	25.5
公共交通と公共交通の乗り継ぎが不便だから(例:バスから電車への乗り継ぎ等)	48	24.0
タクシーの利用料金が高額に感じるから	43	21.5
電車・バスの運賃が高額に感じるから	36	18.0
外出の目的に合わないから(買い物で荷物がたくさんある等)	33	16.5
身体的に利用が難しいから	1	0.5
その他	4	2.0

●「運行本数が少ないから」が79.5%と最も高く、次に「目的地・出発地の近くに駅やバス停がないから」(52.5%)、「自家用車の移動に比べて時間がかかるから」(25.5%)と続いている。

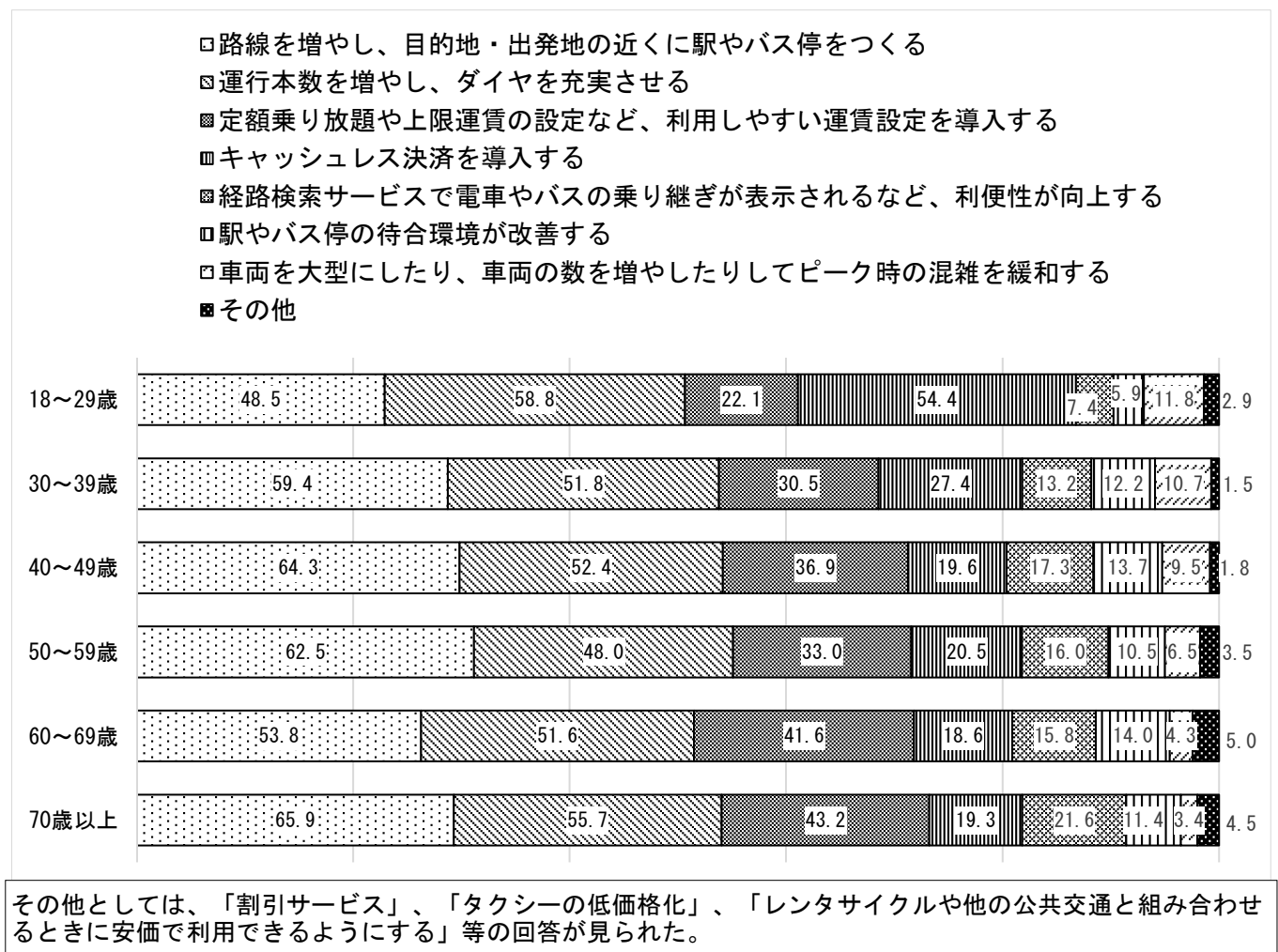


＜公共交通がもっと利用しやすくなるために、求めるサービス＞
 「路線を増やし、目的地・出発地の近くに駅やバス停をつくる」及び「運行本数を増やし、ダイヤを充実させる」が5割を超えている

問6 みなさまが公共交通をもっと利用しやすくなるために、求めるサービスを教えてください。(3つまで)

	回答数 (人)	割合 (%)
n= 1000		
路線を増やし、目的地・出発地の近くに駅やバス停をつくる	591	59.1
運行本数を増やし、ダイヤを充実させる	519	51.9
定額乗り放題や上限運賃の設定など、利用しやすい運賃設定を導入する	357	35.7
運賃を支払う時、現金等を用いずにスマートフォンやICカードをかざすことで決済ができるキャッシュレス決済を導入する	234	23.4
経路検索サービスで電車やバスの乗り継ぎが表示されるなど、利便性が向上する	155	15.5
駅やバス停の待合環境が改善する	121	12.1
車両を大型にしたり、車両の数を増やしたりしてピーク時の混雑を緩和する	73	7.3
その他	33	3.3

●全体としては「路線を増やし、目的地・出発地の近くに駅やバス停をつくる」及び「運行本数を増やし、ダイヤを充実させる」が約5割～6割と多いが、20代は「運賃を支払う時、現金等を用いずにスマートフォンやICカードをかざすことで決済ができるキャッシュレス決済を導入する」が54.4%で他の年代と比較して最多となっている。

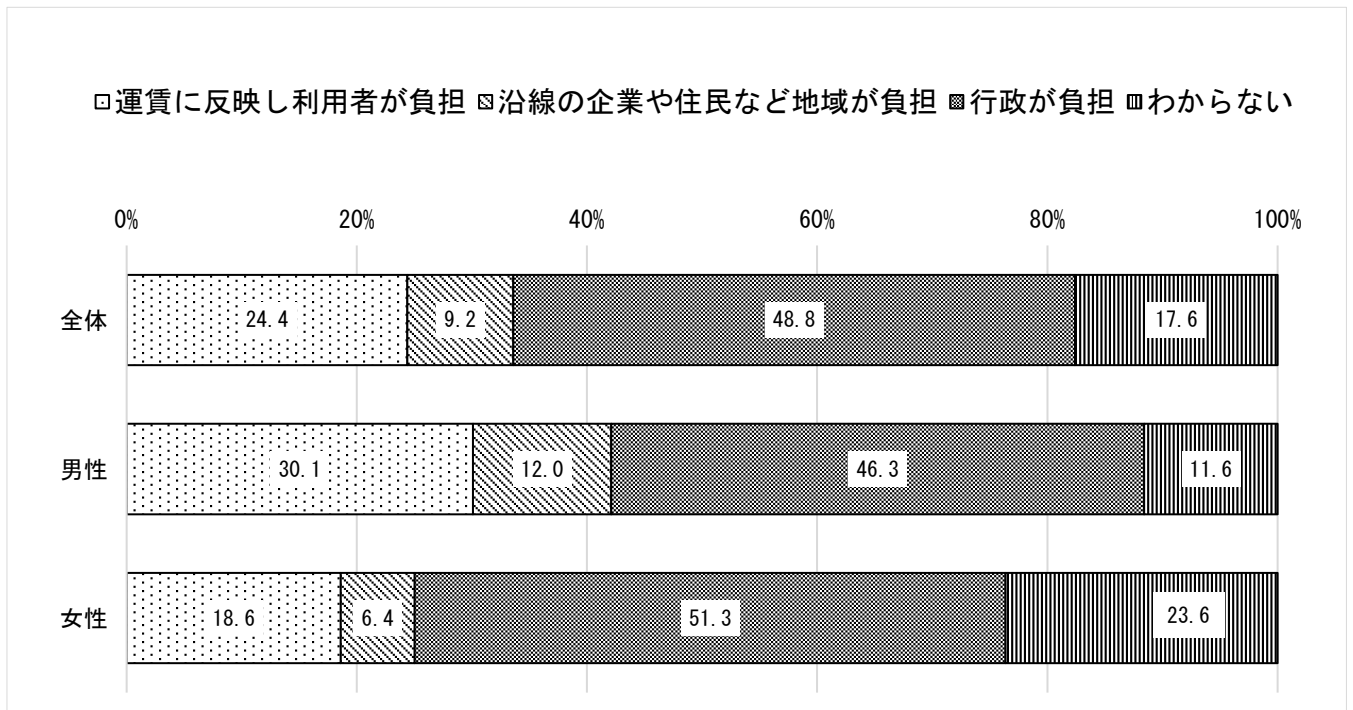


＜問6のサービスを実現するための費用は誰が負担すべきか＞
 「行政が負担」が約5割で最多

問7 問6で選んでいただいたサービスを実現するための費用は誰が負担すべきだと思いますか。ご自身が最も「負担すべき」と感じるものを1つ教えてください。

	n= 1000	回答数 (人)	割合 (%)
運賃に反映し利用者が負担		244	24.4
沿線の企業や住民など地域が負担		92	9.2
行政が負担		488	48.8
わからない		176	17.6

●「行政が負担」が48.8%と最も高く、次に「運賃に反映し利用者が負担」（24.4%）、「沿線の企業や住民など地域が負担」（9.2%）と続いている。一方、「わからない」と回答した方も17.6%と全体で3番目となっている。



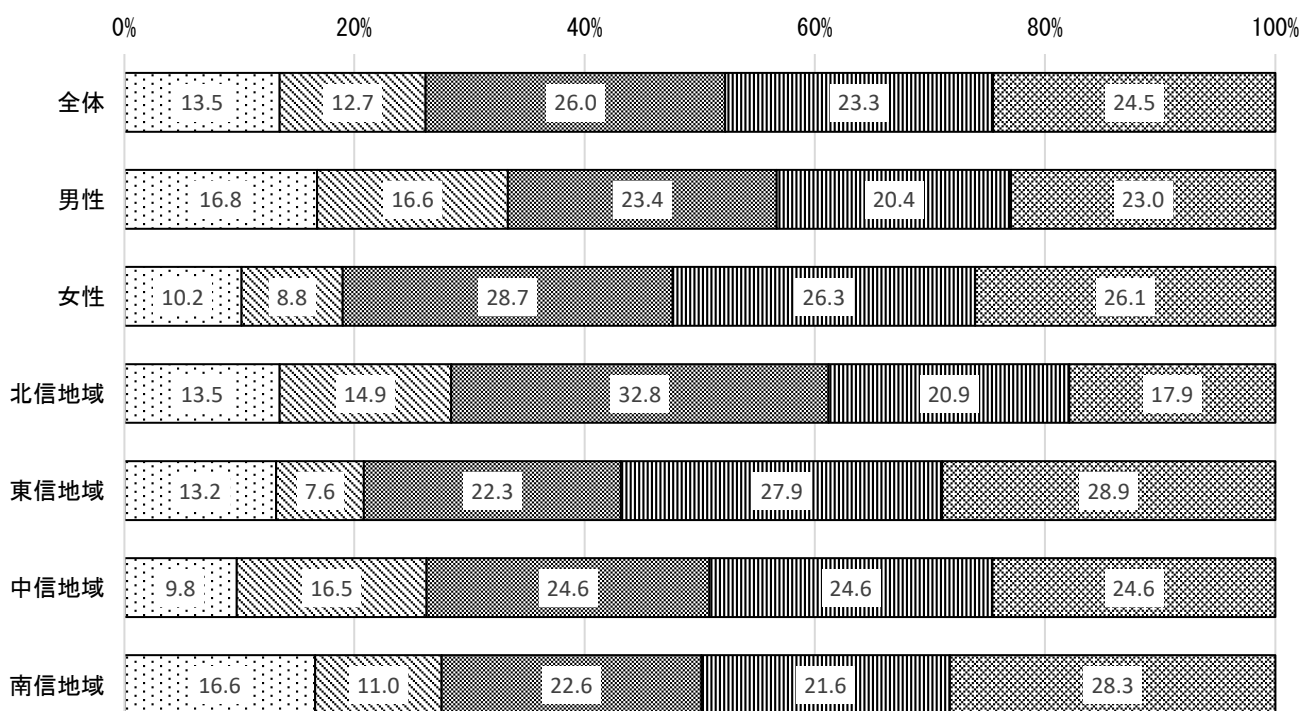
＜今後の公共交通全体に対する行政の負担と利用者負担の最も望ましいあり方＞
サービス水準の維持あるいは向上が望まれている傾向

問8 県内の公共交通は民間事業者の独立採算だけで維持していくことは困難な状況となっております。今後の公共交通全体に対する行政の負担と利用者負担の最も望ましいあり方だと思ふもの（以下の中からご自身のお気持ちに最も近いもの）を教えてください。

	n= 1000	回答数 (人)	割合 (%)
行政の負担、利用者の負担(運賃)ともに現状のままでよい (サービス水準は低下)		135	13.5
行政の負担を現状のままとして、利用者の負担(運賃)を増やした方がよい (サービス水準は維持)		127	12.7
行政の負担を増やし、利用者の負担(運賃)は現状のままでよい (サービス水準は維持)		260	26.0
行政の負担を大きく増やし、利用者の負担(運賃)は現状のままでよい (サービス水準は向上)		233	23.3
行政の負担、利用者の負担(運賃)ともに増やした方がよい (サービス水準は向上)		245	24.5

●「行政の負担を増やし、利用者の負担(運賃)は現状のままでよい(サービス水準は維持)」が26.0%と最も高く、次に「行政の負担、利用者の負担(運賃)ともに増やした方がよい(サービス水準は向上)」(24.5%)、「行政の負担を大きく増やし、利用者の負担(運賃)は現状のままでよい(サービス水準は向上)」(23.3%)と続いている。

- 行政の負担、利用者の負担(運賃)ともに現状のままでよい(サービス水準は低下)
- ▨行政の負担を現状のままとして、利用者の負担(運賃)を増やした方がよい(サービス水準は維持)
- 行政の負担を増やし、利用者の負担(運賃)は現状のままでよい(サービス水準は維持)
- ▩行政の負担を大きく増やし、利用者の負担(運賃)は現状のままでよい(サービス水準は向上)
- ⊞行政の負担、利用者の負担(運賃)ともに増やした方がよい(サービス水準は向上)



＜県内の公共交通に対するご意見、ご要望＞

問9 そのほか、県内の公共交通に対するご意見、ご要望があればお書きください。

	n= 1000	回答数 (人)	割合 (%)
意見数		524	52.4

主な回答は以下のとおり（抜粋）。

- 運転できなければ暮らしていけないので基本が自家用車利用になっている。公共交通路線がどんどん衰退しているのは問題だが利用者が少なく採算が取れないのも現状。オンデマンド交通が増えればいい。
- バス停が遠いし、バスの本数も多くはないので、どうしても公共交通は不便に思ってしまう、免許返納が難しくなる。
- なるべく早く駅まで行きたいのに、そういう便利なバスの本数は減らされ病院など施設経由で行くバスが多くなり、時間ばかりかかる。
- 近くに大糸線の駅があるので遠くに行くのにあまり不便はないが、市内の移動をもっと便利にしてほしい。
- 普段、バス通勤をしているが渋滞が酷すぎるのでラッシュ時だけでも本数を増やしてほしい。また、乗客が両替することで更に時間がかかっているので、SuicaなどICカードでの支払いを可能にして欲しい。
- 時代とともに人が減っている地域の駅を減らし増えているところに駅を造ってほしい。
- 電車を高校への通学に利用している学生もいるので、高校の近くに駅、通学帰路時間に電車があることや、学生が利用する(映画館など)場所には行きやすい公共交通であるべき。
- バス停まで自転車を使っても駐輪スペースがないため、バス停に行くまでの手段が徒歩しかないが、徒歩ではきつい。結果、車になる。バス停近くに駐輪スペースがほしい。
- 無人駅が多いせいか、駅や待合室が虫だらけで汚かったり、ごみが散乱していたりと、治安が悪い。
- それぞれの市町村の循環バスはそれぞれ充実していても、隣の市町村への乗り換えがなく不便。隣接する市町村が協力していくべき。
- 郊外のタクシー乗り合いや路線バスの路線見直しをお願いします。高齢者にとっては郊外の大型スーパーへの循環バスの運行は喫緊の課題である。知り合いの友人は運転出来ない為、人伝いに買い物をお願いしている現状です。
- 車での移動の方が楽だと感じているが、市内は渋滞することもあり時間が読めないためバス等公共交通機関が発達することで渋滞が緩和されたら嬉しい。
- Suicaぐらいはこの交通機関でも普通に利用できるようにしてもらいたい。
- 金銭面で老後の生活に不安を感じる。運賃は出来るだけ現状維持でお願いしたい。
- 集落と集落、拠点と拠点を結ぶ公共交通があれば便利です。その観点から、都市部以上に、中山間地ではコンパクトシティプラスネットワークが必要です。森林づくり県民税に倣って公共交通のための法定外税を作って県営または市町村支援による公共交通の整備をしてはいかがでしょうか。
- 安曇野市にはオンデマンドシステムがあって、スマホで利用できるのも、他の市町村と繋がるようになればいっそう便利。
- 路線バスの本数が無さすぎで全く使えない。車社会なので仕方ないが、公共交通機関を利用するメリットとなるようなサービスを考えて欲しい。

《自殺対策について》

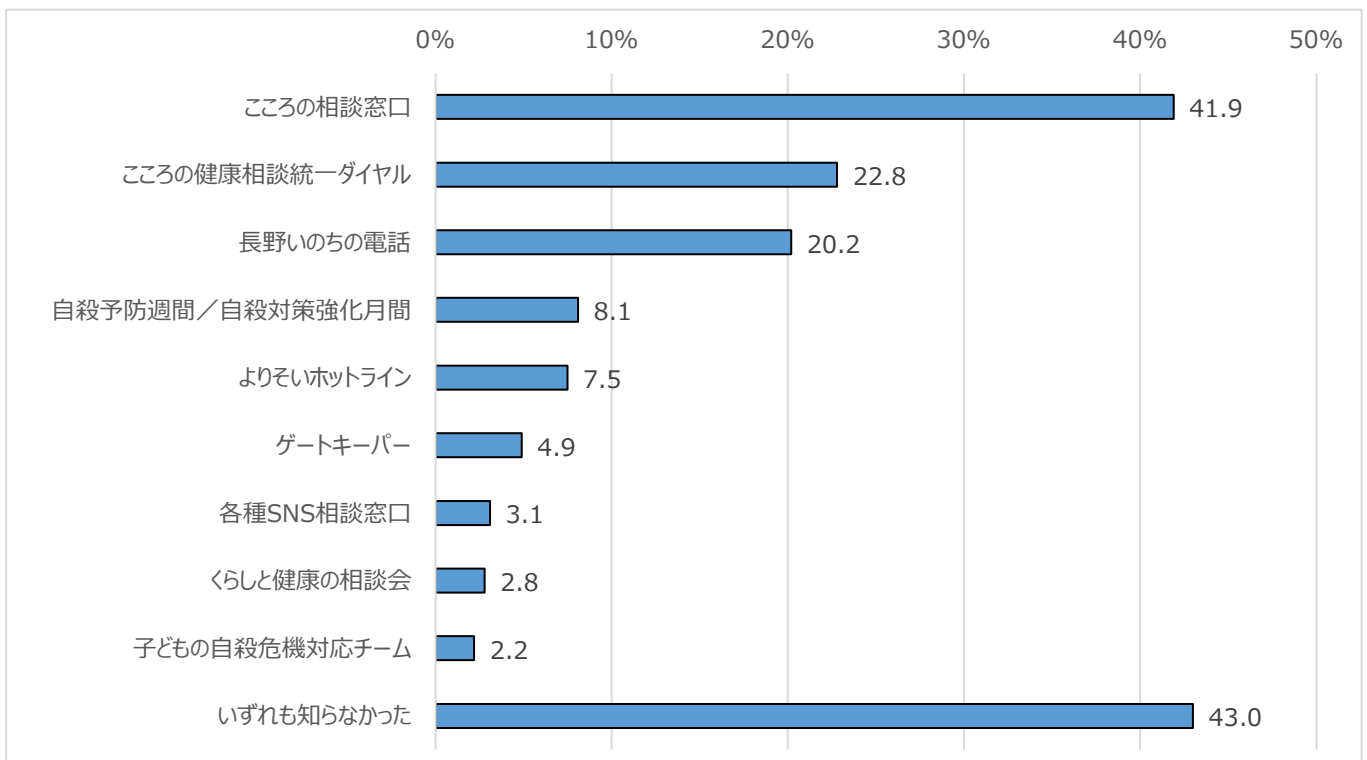
＜自殺対策に関する相談窓口等の認知度＞

各項目において、「知っている」と答えた人の割合は「こころの相談窓口」の認知度は約4割、「こころの健康相談統一ダイヤル」は2割超、「長野いのちの電話」は約2割になっている。

問10 自殺対策に関する以下の相談窓口等について知っていましたか。知っていたものをすべてお選びください。(いくつでも)

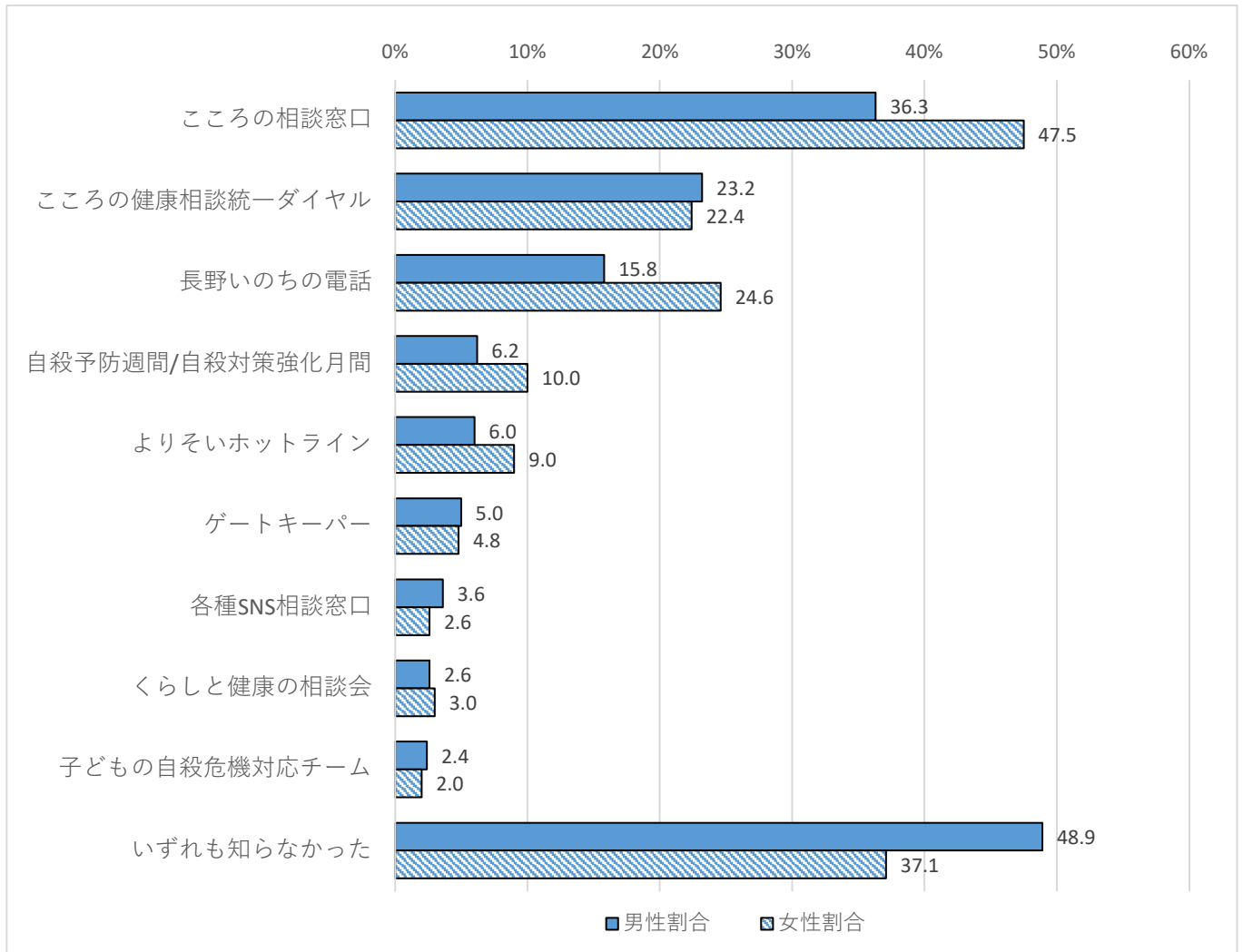
	R5調査 n=1,000		(参考) R4県政モニターアンケート調査n=813	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
こころの相談窓口	419	41.9	372	45.8
こころの健康相談統一ダイヤル	228	22.8	313	38.5
長野いのちの電話	202	20.2	344	42.3
自殺予防週間／自殺対策強化月間	81	8.1	217	26.7
よりそいホットライン	75	7.5	121	14.9
ゲートキーパー	49	4.9	83	10.2
各種SNS相談窓口	31	3.1	114	14.0
くらしと健康の相談会	28	2.8	114	14.0
子どもの自殺危機対応チーム	22	2.2	-	-
いずれも知らなかった	430	43.0	214	26.3

●「こころの相談窓口」は41.9%、「こころの健康相談統一ダイヤル」は22.8%、「長野いのちの電話」は20.2%の認知度があるが、それ以外については認知度が10%を下回り軒並み低く、「いずれも知らなかった」が43.0%となっている。



相談窓口等の認知度の男女別割合

●全体的に女性に比べて男性の認知度が低い傾向にある。



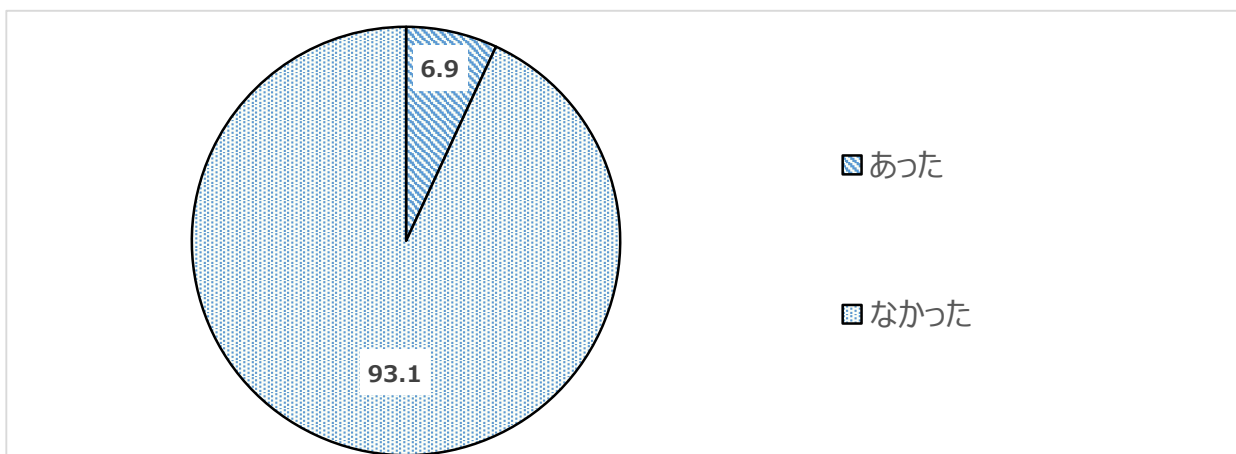
<自殺の実態やその予防に関する知識を得る機会があったかどうか>

知識を得る機会が「あった」との回答は1割に満たず、「なかった」が9割を超えている。

問11 あなたは自殺の実態やその予防に関する知識を得る機会((例)ゲートキーパー研修会もしくは、自殺予防に関する講演会等)がありましたか。

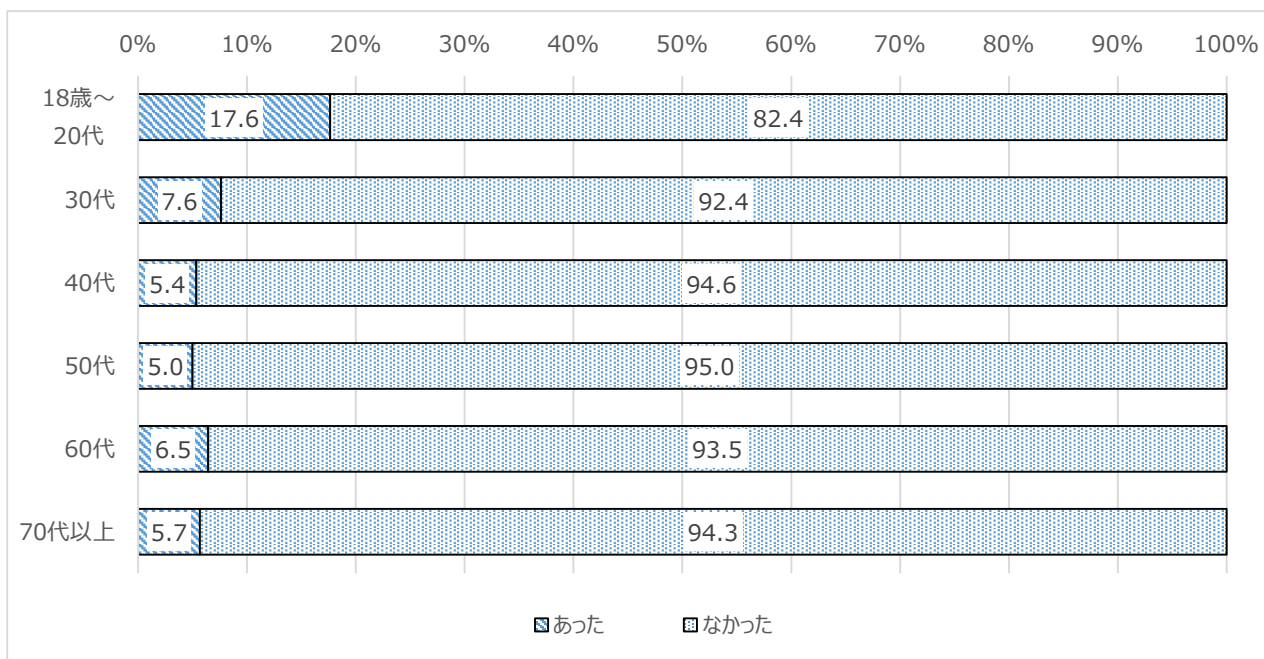
	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
あった		69	6.9
なかった		931	93.1

●自殺の実態やその予防に関する知識を得る機会が「あった」6.9%、「なかった」93.1%となっている。



自殺の実態やその予防に関する知識を得る機会があったかどうかの年代別割合

●機会が「あった」との回答が最も多かったのが18歳～20代(17.6%)、それ以外の年代は1割に満たない。



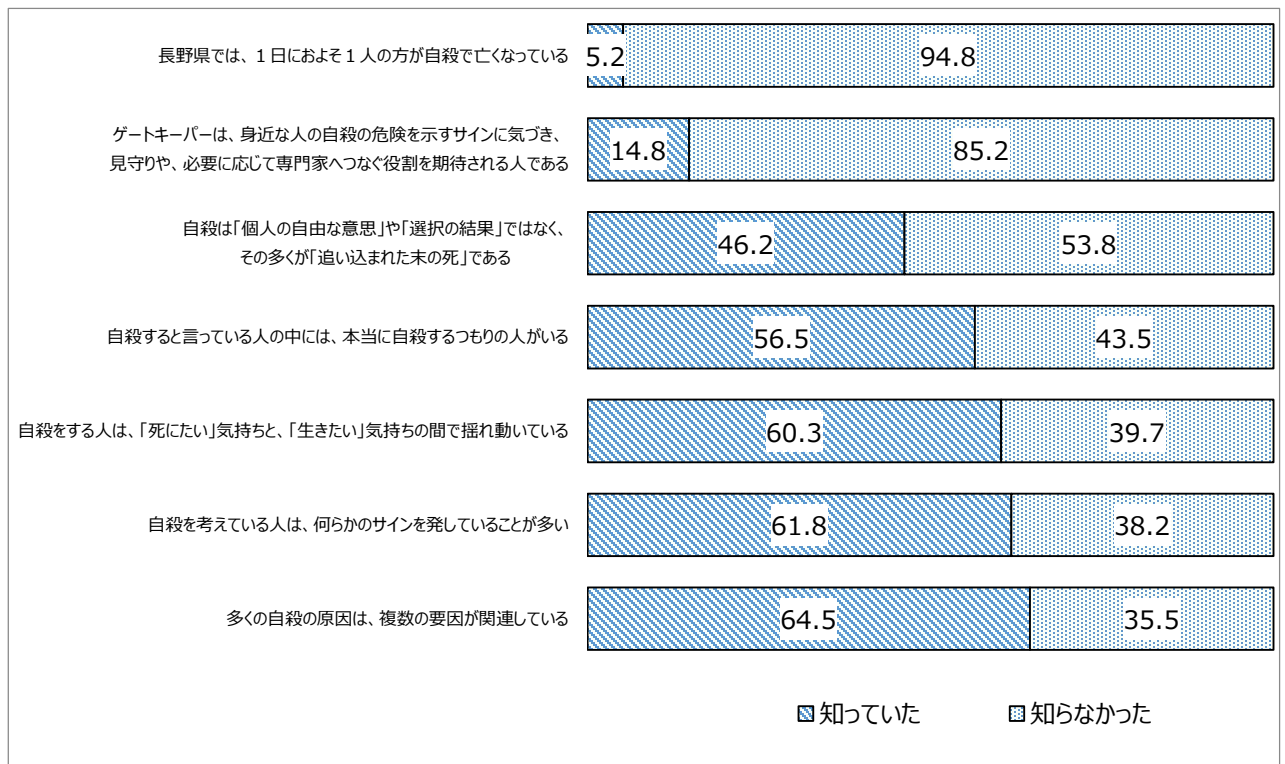
<自殺の実態やゲートキーパーに関する情報の認知度について>

「長野県では、1日におよそ1人の方が自殺で亡くなっている」を「知らなかった」との回答が9割超になっている。

問12 自殺の実態やゲートキーパーに関する以下の情報について、もともと知っていたものは知っていたに、知らなかったものは知らなかったをお選びください。

	知っていた		知らなかった	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
n=1,000 長野県では、1日におよそ1人の方が自殺で亡くなっている	52	5.2	948	94.8
ゲートキーパーは、身近な人の自殺の危険を示すサインに気づき、見守りや、必要に応じて専門家へつなぐ役割を期待される人である	148	14.8	852	85.2
自殺は「個人の自由な意思」や「選択の結果」ではなく、その多くが「追い込まれた末の死」である	462	46.2	538	53.8
自殺すると言っている人の中には、本当に自殺するつもりの人がある	565	56.5	435	43.5
自殺をする人は、「死にたい」気持ちと、「生きたい」気持ちの間で揺れ動いている	603	60.3	397	39.7
自殺を考えている人は、何らかのサインを発していることが多い	618	61.8	382	38.2
多くの自殺の原因は、複数の要因が関連している	645	64.5	355	35.5

●「知らなかった」の回答について、「長野県では、1日におよそ1人の方が自殺で亡くなっている」(94.8%)と「ゲートキーパーは、身近な人の自殺の危険を示すサインに気づき、見守りや、必要に応じて専門家へつなぐ役割を期待される人である」(85.2%)は認知度が低くなっている。



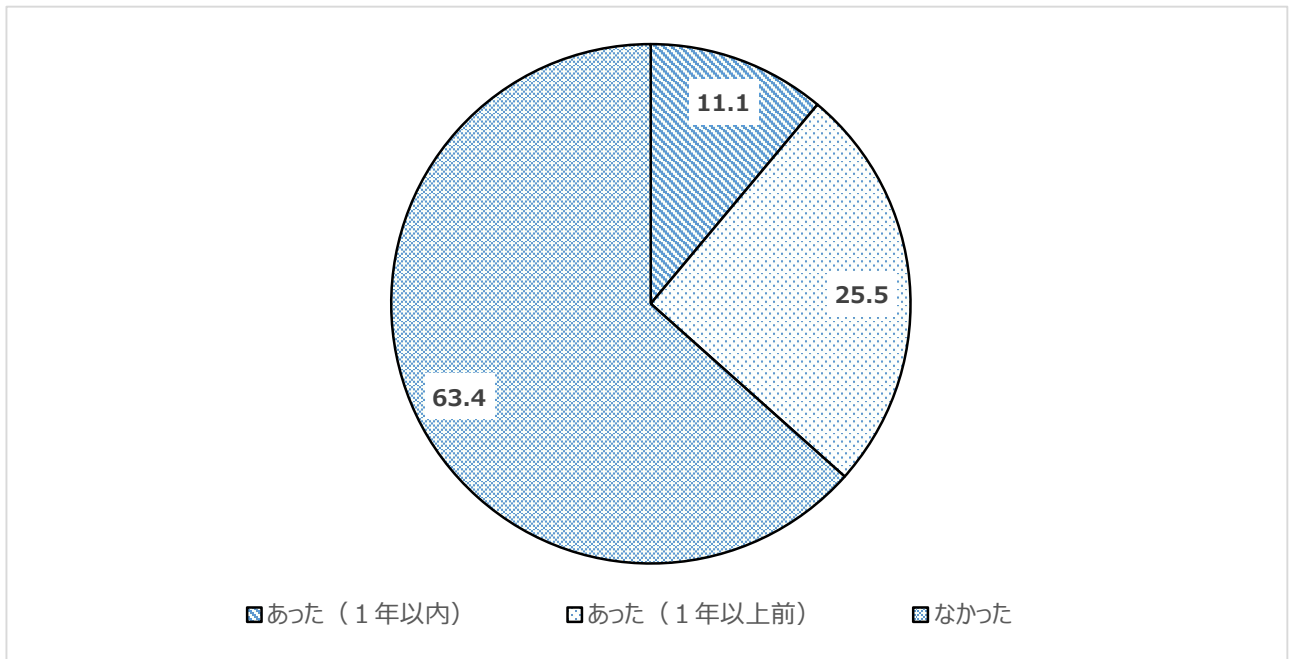
<過去に「死にたいほどつらい」気持ちになったことがあるかどうか>

1年以内に「死にたいほどつらい」気持ちになったと回答したのは約1割だったが、過去にそのような気持ちになったことがある人も含めると4割弱になっている。

問13 あなたは過去に「死にたいほどつらい」気持ちになったことがありますか。当てはまるものを選択してください。

	R5調査 n=1,000		(参考) R4県政モニターアンケート調査n=813	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
あった(1年以内)	111	11.1	29	3.6
あった(1年以上前)	255	25.5	166	20.4
なかった	634	63.4	602	74.0
無回答	-	-	16	2.0

●「死にたいほどつらい」気持ちになったことがあるとの回答が、1年以内は11.1%、1年以上前は25.5%となっている。



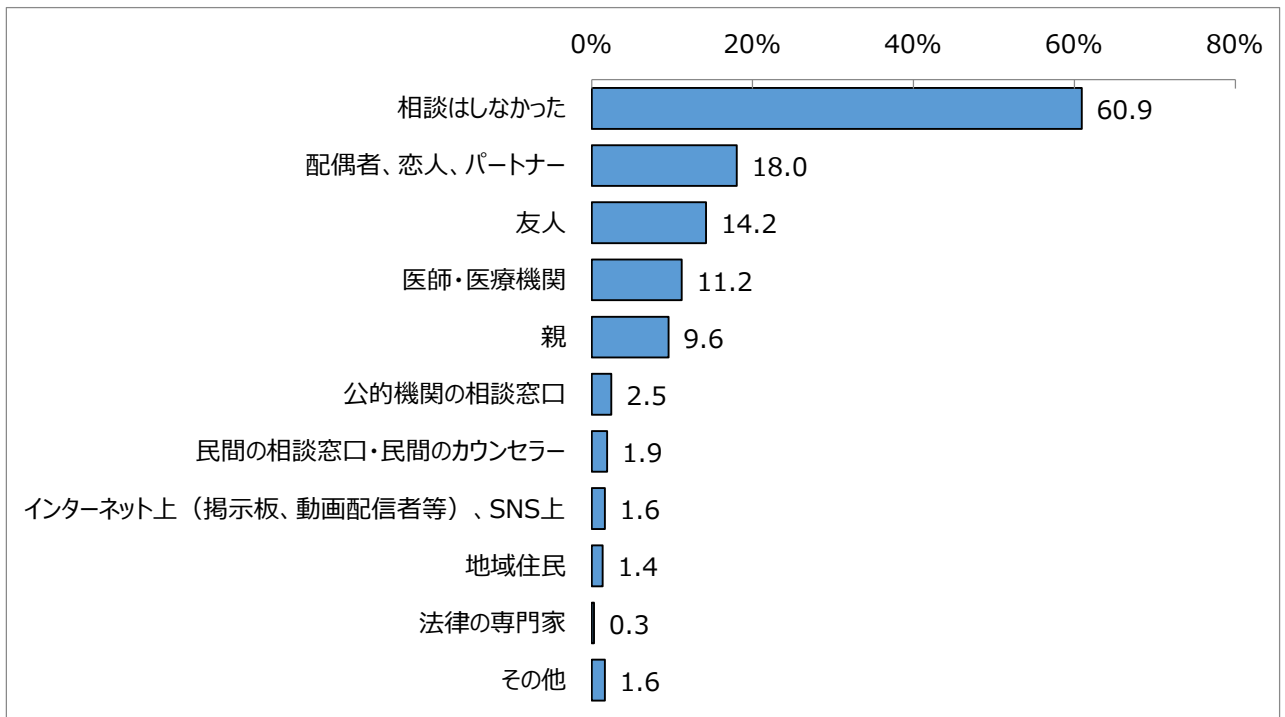
＜「死にたいほどつらい」気持ちになった際、どこに相談したか＞

「死にたいほどつらい」気持ちになった際、「相談しなかった」との回答が約6割になっている。

問14 問13で「①あった(1年以内)」または「②あった(1年以上前)」を選んだ方にお伺いします。どこかに相談しましたか。当てはまるものを選択してください。(いくつでも)
また、「⑩その他」をお答えの場合は、具体的な相談先をご記載ください。

	R5調査 n=366		(参考) R4県政モニターアンケート調査n=195	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
相談はしなかった	223	60.9	99	50.8
配偶者、恋人、パートナー	66	18.0	33	16.9
友人	52	14.2	36	18.5
医師・医療機関	41	11.2	25	12.8
親	35	9.6	36	18.5
公的機関の相談窓口	9	2.5	10	5.1
民間の相談窓口・民間のカウンセラー	7	1.9	2	1.0
インターネット上(掲示板、動画配信者等)、SNS上	6	1.6	4	2.1
地域住民(近所の人、地域のお店等の店員、民生委員等)	5	1.4	0	0
法律の専門家	1	0.3	4	2.1
その他	6	1.6	2	1.0

● 「相談はしなかった」が最も多く60.9%となっており、次に「配偶者、恋人、パートナー」(18.0%)、「友人」(14.2%)と続いている。



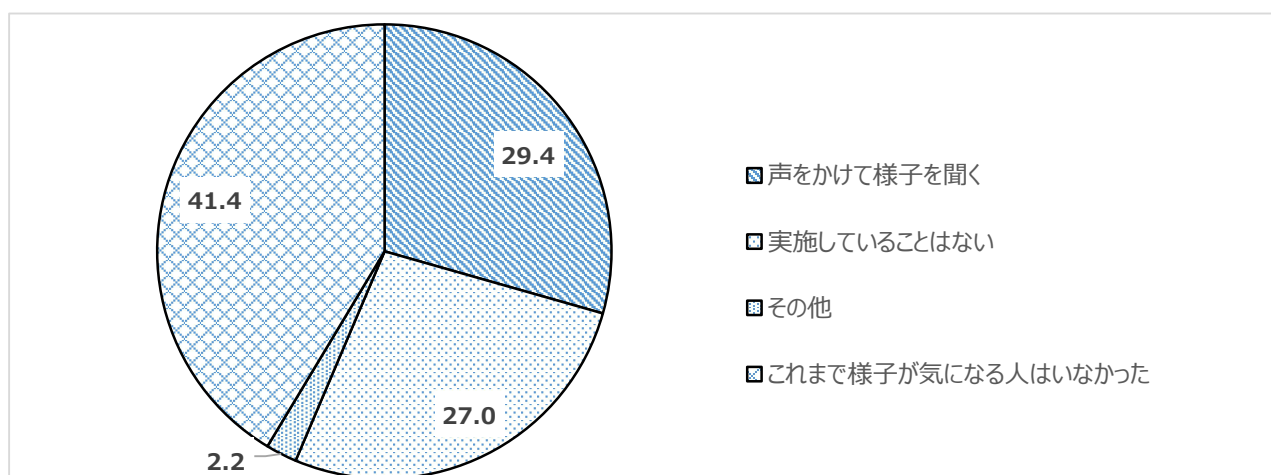
その他として「親戚」「弟」「娘」などの回答があった。

＜いつもと様子が違う人に対して、どのように接しているか＞
 「声をかけて様子を聞く」が約3割、「実施していることはない」が3割弱になっている。

問15 「表情が暗い」「元気がない」など、いつもと様子が違う人に対して、どのように接していますか。最も当てはまるものを選択してください。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
「元気がないように見えますが、どうしましたか。」「とても疲れているようですが、よく眠れていますか。」などと、声をかけて様子を聞く		294	29.4
実施していることはない		270	27.0
その他		22	2.2
これまで様子が気になる人はいなかった		414	41.4

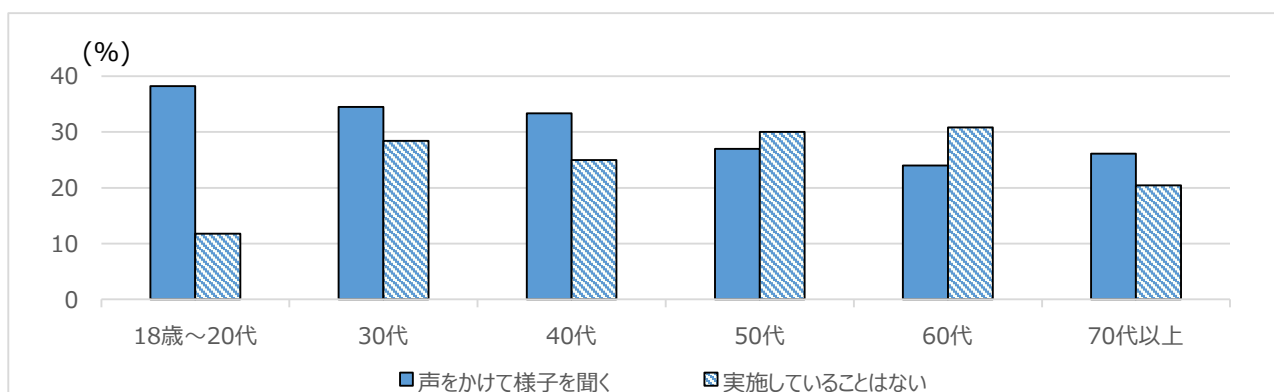
● 「声をかけて様子を聞く」が29.4%、「実施していることはない」が27.0%でほぼ同数。



その他として「話題は何でもいいので話をする」「見守る」「民生や行政に伝える」などの回答があった。

「声をかけて様子を聞く」と「実施していることはない」の年代別の割合

● 18歳～20代、30代、40代及び70代以上は「声をかけて様子を聞く」が「実施していることはない」を上回っている。



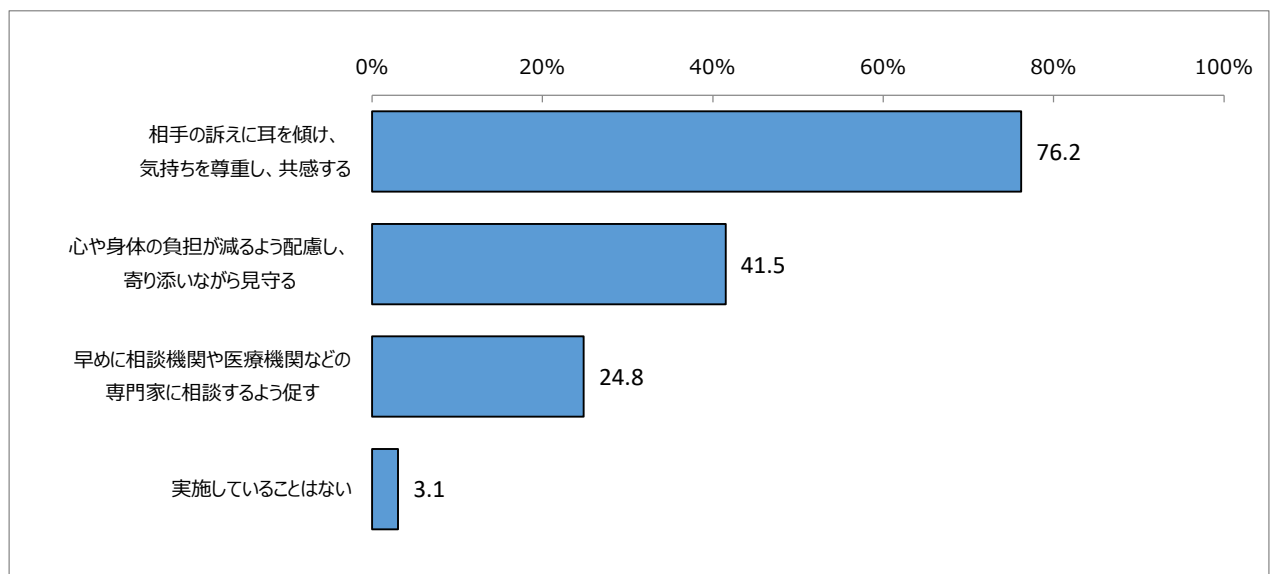
<相手が悩みを打ち明けてくれた場合、普段から実施していること>

「相手の訴えに耳を傾け、気持ちを尊重し、共感する」は8割弱、「早めに相談機関や医療機関などの専門家に相談するよう促す」は2割超にとどまっている。

問16 問15で「①声をかけて様子を聞く」を選んだ方にお伺いします。相手が悩みを打ち明けてくれた場合、普段から実施していることはありますか。当てはまるものを選択してください。(いくつでも)

	n=294	回答数 (人)	割合 (%)
相手の訴えに耳を傾け、気持ちを尊重し、共感する		224	76.2
心や身体の負担が減るよう配慮し、寄り添いながら見守る		122	41.5
早めに相談機関や医療機関などの専門家に相談するよう促す		73	24.8
実施していることはない		9	3.1

●「相手の訴えに耳を傾け、気持ちを尊重し、共感する」(76.2%)と、傾聴の割合は高いが、「早めに相談機関や医療機関などの専門家に相談するよう促す」(24.8%)のような、相談を受けた後に専門機関へつなげる割合は低くなっている。



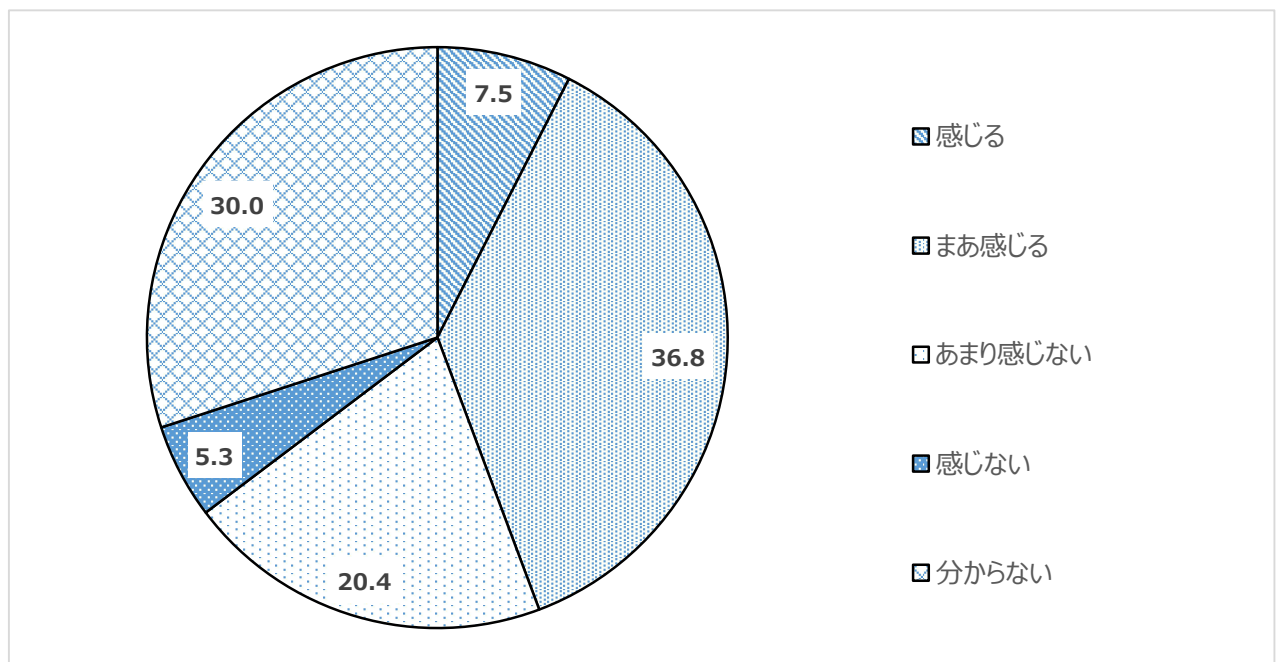
<周りにいる子どもたち(18歳以下)は生き生きと過ごすことができていると感じるか>

周りにいる子どもたち(18歳以下)は生き生きと過ごすことができていると「感じる」(7.5%)と「まあ感じる」(36.8%)が計4割超、「あまり感じない」(20.4%)と「感じない」(5.3%)が計2割超になっている。

問17 あなたの周りにいる子どもたち(18歳以下)は生き生きと過ごすことができていると感じますか。当てはまるものを選択してください。
また、「③あまり感じない」もしくは「④感じない」を選択した場合、理由もご記載ください。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
感じる		75	7.5
まあ感じる		368	36.8
あまり感じない		204	20.4
感じない		53	5.3
分からない		300	30.0

●周りにいる子どもたち(18歳以下)は生き生きと過ごすことができていると「感じる」(7.5%)、「まあ感じる」(36.8%)、「あまり感じない」(20.4%)、「感じない」(5.3%)となっている。



「あまり感じない」「感じない」の理由として、「SNS疲れしているように見える」「会話がすくなくなった」「元気がない」「将来への希望を抱きにくくなっている」などの回答があった。

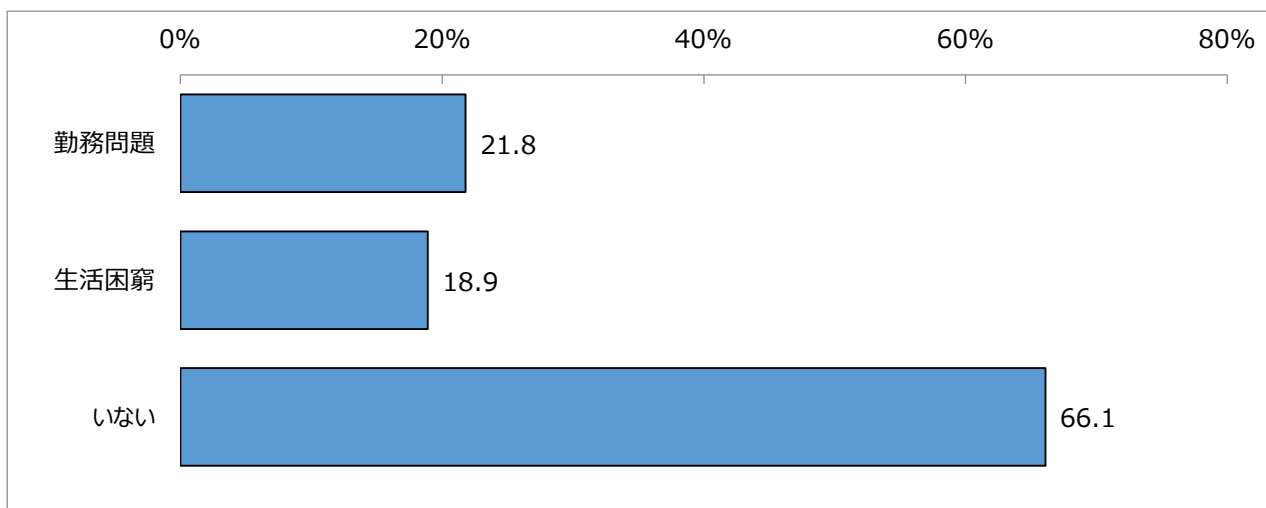
<生活困窮、勤務問題で悩んでいる人の割合>

「勤務問題」、「生活困窮」で悩んでいるとの回答はいずれも約2割になっている。

問18 あなた自身、家族又は周囲の人に下記の内容が原因で悩んでいる方はいますか。
当てはまるものを選択してください。(いくつでも)

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
勤務問題 (ハラスメント、職場環境、労働条件等)		218	21.8
生活困窮		189	18.9
いない		661	66.1

●「勤務問題」で悩んでいるとの回答は21.8%、「生活困窮」で悩んでいるとの回答は18.9%になっている。



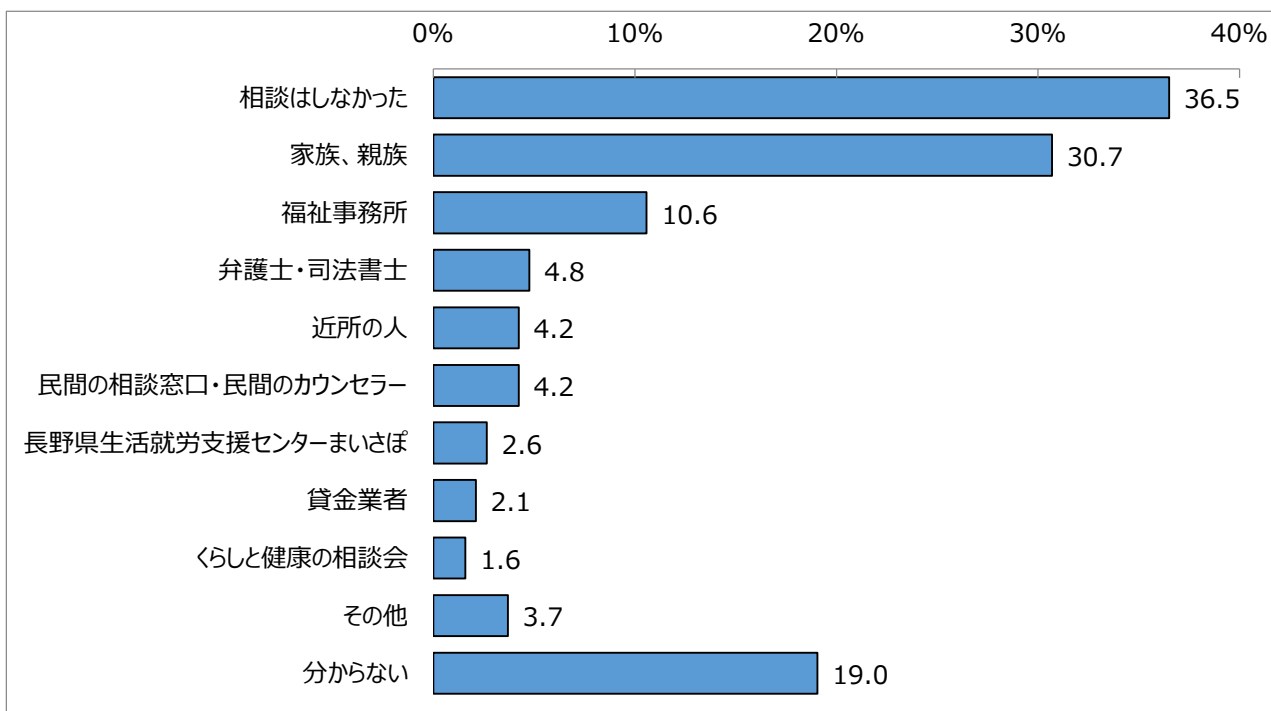
<生活困窮で困った際の相談先>

生活困窮で困った際に「相談はしなかった」が4割弱で、どこかに相談した中で最も多い相談先は「家族・親族」で約3割になっている。

問18で「①生活困窮」を選んだ方にお伺いします。その悩んでいる方はどこに相談しましたか。
問19 当てはまるものを選択してください。(いくつでも)
また、「⑨その他」をお答えの場合は、具体的な相談先をご記載ください。

	n=189	回答数 (人)	割合 (%)
相談はしなかった		69	36.5
家族、親族		58	30.7
福祉事務所(もしくは行政の生活保護担当部署)		20	10.6
弁護士・司法書士		9	4.8
近所の人		8	4.2
民間の相談窓口・民間のカウンセラー		8	4.2
長野県生活就労支援センターまいさぼ		5	2.6
貸金業者		4	2.1
くらしと健康の相談会		3	1.6
その他		7	3.7
分からない		36	19.0

●「相談はしなかった」が36.5%と最も多かった。どこかに相談した中で、最も多い相談先が「家族、親族」(30.7%)、次いで「福祉事務所(もしくは行政の生活保護担当部署)」(10.6%)になっている。



その他として「訪問看護師」「市議会議員」「友人」などの回答があった。

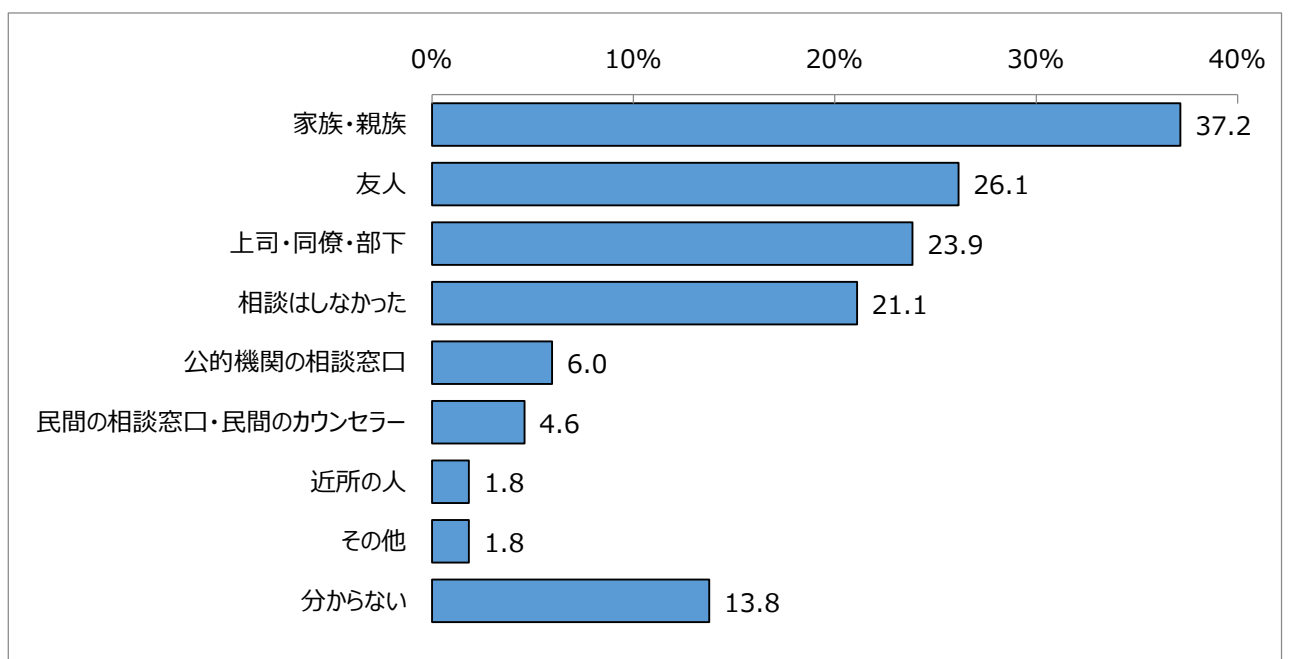
<勤務問題で困った際の相談先>

勤務問題で困った際に「相談はしなかった」が約2割で、どこかに相談した中で最も多い相談先は「家族・親族」で4割弱になっている。

問18で「②勤務問題」を選んだ方にお伺いします。その悩んでいる方はどこに相談をしましたか。当てはまるものを選択してください。(いくつでも)
 問20 また、「⑦その他」をお答えの場合は、具体的な相談先をご記載ください。

	n=218	回答数 (人)	割合 (%)
家族・親族		81	37.2
友人		57	26.1
上司・同僚・部下		52	23.9
相談はしなかった		46	21.1
公的機関の相談窓口 (労政事務所、長野労働局雇用環境・均等室、労働基準監督署など)		13	6.0
民間の相談窓口・民間のカウンセラー		10	4.6
近所の人		4	1.8
その他		4	1.8
分からない		30	13.8

●「相談はしなかった」は21.1%。だれかに相談した中で、最も多い相談先が「家族・親族」(37.2%)、次いで「友人」(26.1%)、上司・同僚・部下(23.9%)になっている。



その他として「市議会議員」「ドクター」「会社の相談窓口」などの回答があった。

【30代～50代で現在就労(正規・非正規限らず)している方への設問】

＜安心して働けていると感じるか＞

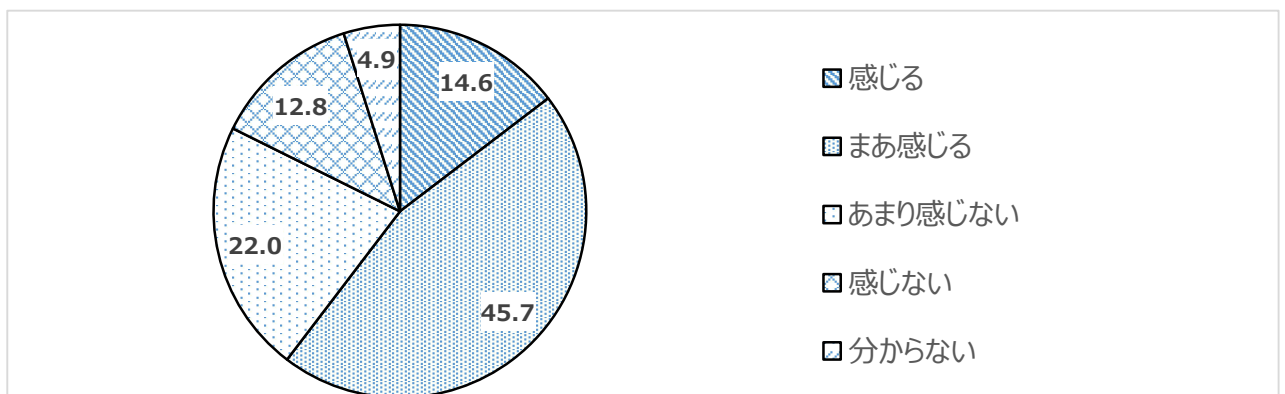
「感じる」(14.6%)と「まあ感じる」(45.7%)が合わせて約6割、「あまり感じない」(22.0%)と「感じない」(12.8%)が合わせて3割超になっている。

【30代～50代で現在就労(正規・非正規限らず)している方への設問】

問21 あなたは安心して働けていると感じますか。当てはまるものを選択してください。また、「③あまり感じない」もしくは「④感じない」を選択した場合、理由もご記載ください。

	n=492	回答数 (人)	割合 (%)
感じる		72	14.6
まあ感じる		225	45.7
あまり感じない		108	22.0
感じない		63	12.8
分からない		24	4.9

●安心して働けていると「感じる」(14.6%)「まあ感じる」(45.7%)が計60.3%、「あまり感じない」(22.0%)「感じない」(12.8%)が計34.8%となっている。



「あまり感じない」「感じない」の理由として、「ハラスメントが多い」「ストレスが多い」「安定していない」「先行きが不安」などの回答があった。

安心して働けていると感じるか・感じないかの年代別の割合

●安心して働けていると「感じる・まあ感じる」は、40代で最も多く64.7%となっている。

